異文化と心通わせ

つくば通信 ①

村田　佳子

「道端に警察官が立っていないんですね」。

先日、ご一緒したアフガニスタンの農業技術者の言葉です。そして彼は続けました。

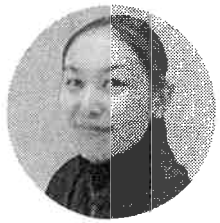
「私の住むカブールは治安がまだまだよくないので、銃を持った警察官が街の至る所で警護をしているんです。日本は本当に平和な国ですね」。

現在、私は茨城県つくば市にある国際協力機構（JICA）筑波国際センターで、医療コーディネーターという仕事をしています。JICAでは、ODA（政府開発援助）を通じてアフリカ、アジア、中南米、東欧など開発途上国から年間約900人の技術者、行政官、研究者を受け入れています。そのうちの約10%、900人ほどが毎年、筑波国際センターに滞在します。そして市内の各研究機関や大学を訪れ、視察や研修を行っています。短い人で視察の期間は2週間ほどですが、研修、留学が3年という長期に及ぶ人もいらっしゃいます。

私は、そのJICA筑波国際センターに勤務し、来日される方々の健康相談や病院の手配、診察や入院時の通訳をしています。急患の場合には救急車内で、救急隊員の方々と患者さんの意思疎通のお手伝いをさせていただくこともあります。来日される方の大半は、第2、第3外国語として英語を話しますが、中には英語教育を受ける機会がなかった中央アジア、中国、中南米などの方もいます。その方たちにはロシア語、中国語、スペイン語などが得意なコーディネーターが、通訳も含めて滞在期間中のさまざまな場面でサポートしています。

冒頭の言葉は、病院の待合室でうかがったものです。日本という慣れない環境に加え、家族と離れていることもあり、滞在中に心身に不調をきたす場合が少なくありません。健康診断なども含めると年に500回ほど、私は海外からつくばを訪れた方と医療機関にご一緒しています。

外国との「架け橋」に



村田佳子（むらた・よしこ）＝鶴岡市出身。筑波大学体育専門学群卒業後、オーストラリアに留学。英会話学校講師、米CBS長野五輪ホスピタリティスタッフを経て、1998年からJICA筑波国際センターに医療コーディネーターとして勤務。これまで開発途上国からの研究者や行政官延べ3000人の健康相談、医療通訳に携わる。2005年からコーチング・システムズつくばオフィス室長。研究者、アスリートのキャリア支援コーチングを行う。生涯学習開発財団認定コーチ。

「遠い外国で病気やけがをしてしまった」ということご本人にとって最悪の事態を、出来ることなら「不幸中の幸い」と感じていただけるよう、そして病院の行き帰りや待合室での不安な時間が少しでも軽減されるようになればと思っています。トライアル&エラー、試行錯誤の毎日です。

つくばで学ぶ農業技術者の方々が例年、国内の農家のご協力を得て、全国各地で実習させていただいています。今年はそのうちの11人が鶴岡市の農家に受け入れていただきました。そこでぜひ、その模様を荘内日報紙上で取り上げていただけないかと、ご相談したところ、快諾のお返事と共に、鶴岡出身である私のつくばでの日々について書いてみませんか、というお誘いを受けました。

異なる国の文化を背景に持つ方たちと仕事をする中で教えていただいたこと、自分の当たり前が世界では当たり前ではないことに気づかされた出来事、そして日本に生まれ、些細なことに喜べる日々がどんなに幸せか気づくきっかけになった話など、日々のコミュニケーションの中から少し、お届けできればと思っております。（鶴岡市出身、JICA筑波国際センター・クリニックコーディネーター）

短歌

水の会7月歌会

身に重き着物となりぬセルといふ木綿といふに心

身によしと口こみにきき し布草履作らむとしてわが浴衣裂く

亡き祖母の草履作りきおぼろげに仕草たどりて今

イヤ＝搭乗券発売状況
月1日からの発着時刻）
日空 庄内一東京
18 19 20 21 22 23 24
火 水 木 金 土 日 月
8:15着） ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 便名 894
9:55着） ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 896

列車名（発車、到着時刻）	種別	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月
日本海4号 （大阪着10:23）（酒田発 0:06、鶴岡発 0:30）	B寝 A個							
いなほ2号 （新潟着 7:49）（酒田発 5:42、鶴岡発 6:02）	G 普							
Maxとき310号								

◀上り

列車名（発車、到着時刻）	種別	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月
日本海1号 （大阪発17:47）（鶴岡着 3:31、酒田着 3:55）	B寝 A個							
あけぼの （上野発21:45）（鶴岡着 4:35、酒田着 5:06）	B寝 B個							